

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 8 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、発生の確認と防除指導方よろしくお願ひします。

記

1 情報の内容 **サトイモ疫病の発生地域の拡大と防除の徹底について**

2 発生状況

令和 3 年 8 月 26 日、中予地域のサトイモ圃場で疫病の発生を確認した。これまでの発生は東予地域のみであったが、中予地域では初めての発生である。また、既発生地である東予地域では、8 月の台風 9 号による付傷やその後の天候不順が続いたことから、発生程度が高まっている圃場がみられる（写真 1）。

3 当面の防除対策

- (1) 圃場をこまめに観察し、葉の病徴の有無を確認する。特に発病は中位葉から下位葉で多く認められ、圃場の周辺箇所からの発病が多いので注意する。
- (2) 発生初期の段階では、発病葉などは早急に除去し圃場外に持ち出す。
- (3) 未発生圃場では、ジーファイン水和剤などで定期的な予防散布を行い、発病が認められた圃場では、直ちにダイナモ顆粒水和剤、次いでアミスター 20 フロアブルを散布する。なお、収穫期が近い圃場では、農薬使用基準に留意する。
- (4) サトイモの茎葉は水をはじきやすく薬液が付着しにくいので、展着剤を必ず加用する。
- (5) サトイモ疫病の防除体系は表 2 を参照。



写真 1 サトイモ疫病の被害状況（8 月 23 日）

表1 サトイモ疫病に対して使用できる殺菌剤

薬剤名	希釈倍数	10aあたり使用液量	使用時期	本剤の使用回数
ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500ℓ	収穫前日まで	-(制限なし)
ペンコゼブ水和剤	500倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	2回以内
アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300ℓ	収穫14日前まで	3回以内
ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	100～300ℓ	収穫21日前まで	3回以内
	20倍*	1.6ℓ		
	40倍*	3.2ℓ		

\*: ダイナモ顆粒水和剤の20、40倍は、無人航空機による散布

表2 サトイモ疫病の防除体系モデル

【防除薬剤】	6月	7月	8月	9月												
		梅雨入り前	梅雨明け後	蔓延警戒期 (発生増加注意)	収穫期											
① ↓ ジーファイン水和剤	(梅雨入り前のダニ剤混用散布)															
② ↓ ペンコゼブ水和剤	(梅雨入り前の殺菌剤単用散布)															
↓ ダイナモ顆粒水和剤			○発生増加前 ペンコゼブを散布	○台風通過後 ダイナモ、次いでアミスターを散布												
↓ アミスター20フロアブル					○収穫前 軟腐病の予防対策も兼ねて ジーファインを散布											
	【使用時期別の防除薬剤と注意点】															
	○梅雨入り前または梅雨明け後															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>散布方法</th> <th>時期</th> <th>梅雨入り前</th> <th>梅雨明け後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①ダニ剤混用散布</td> <td></td> <td>ペンコゼブ</td> <td>ジーファイン</td> </tr> <tr> <td>②単用散布</td> <td></td> <td>ジーファイン</td> <td>ペンコゼブ</td> </tr> </tbody> </table>		散布方法	時期	梅雨入り前	梅雨明け後	①ダニ剤混用散布		ペンコゼブ	ジーファイン	②単用散布		ジーファイン	ペンコゼブ		
散布方法	時期	梅雨入り前	梅雨明け後													
①ダニ剤混用散布		ペンコゼブ	ジーファイン													
②単用散布		ジーファイン	ペンコゼブ													
	○初発後 発病葉等を除去し、ダイナモ、次いでアミスターを散布															
	○降雨が続くことによる多発前 応急的にダイナモを連続散布(但し、可能な限り「蔓延警戒期」まで温存すること)															